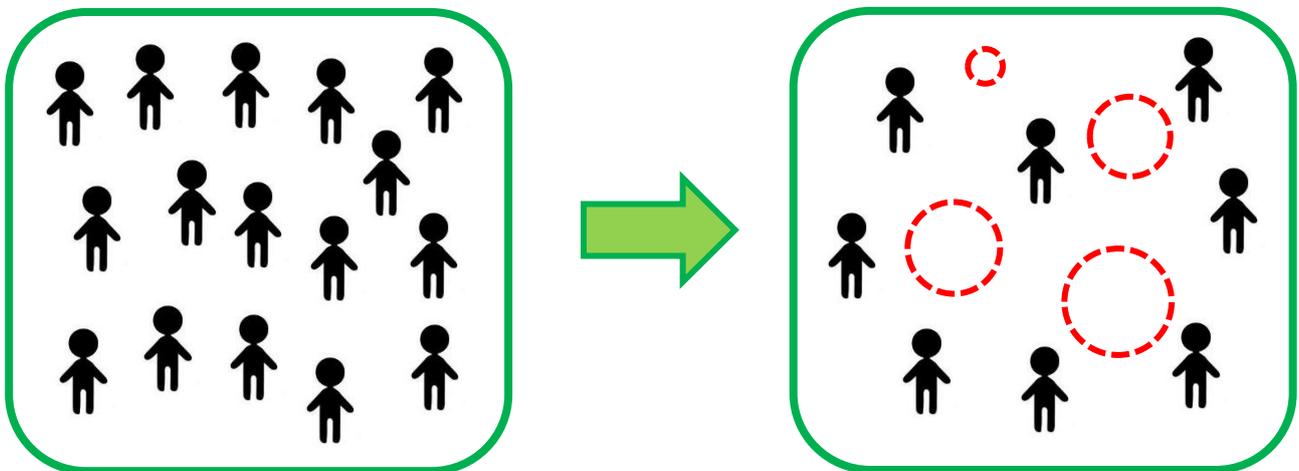


# 立地適正化計画ってなに？

## 1. 川南町の問題について

- ・私たちの住んでいるまちの問題を知っていますか？
  - ・この10年間で約1,900人の人口が減っています。
  - ・このまま人口が減っていくと、元々住んでいた場所から人がいなくなって隙間が増えてしまい、まちがスカスカになってしまいます。
- これを「まちのスポンジ化」といいます。

### まちのスポンジ化

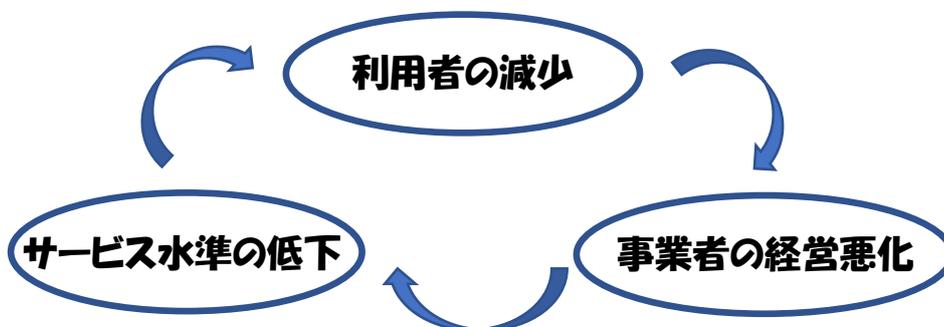


人口密度が低下します

## 2. このままでは地域のいろいろな施設(生活サービス)が無くなるかもしれません

・病院やスーパーマーケットなどの施設、電車やバスなどの公共交通機関である生活サービスは、多くの人々に利用していただくことで経営が成り立っています。だから、人口が減って利用する人が少なくなると経営が成り立たなくなり、日常の生活が不便になってしまいます。

人口が減ってまちのスポンジ化が進行すると…

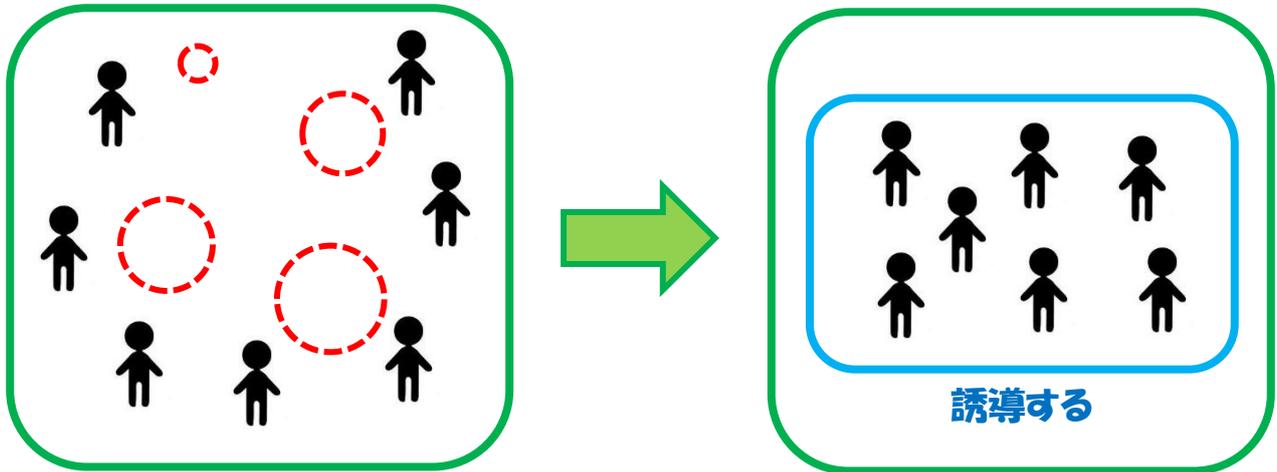


様々な施設(生活サービス)が無くなるかも…



### 3.立地適正化計画とは？

・人口が減った分、まちをコンパクトにする(住むところをまとめる)計画です。



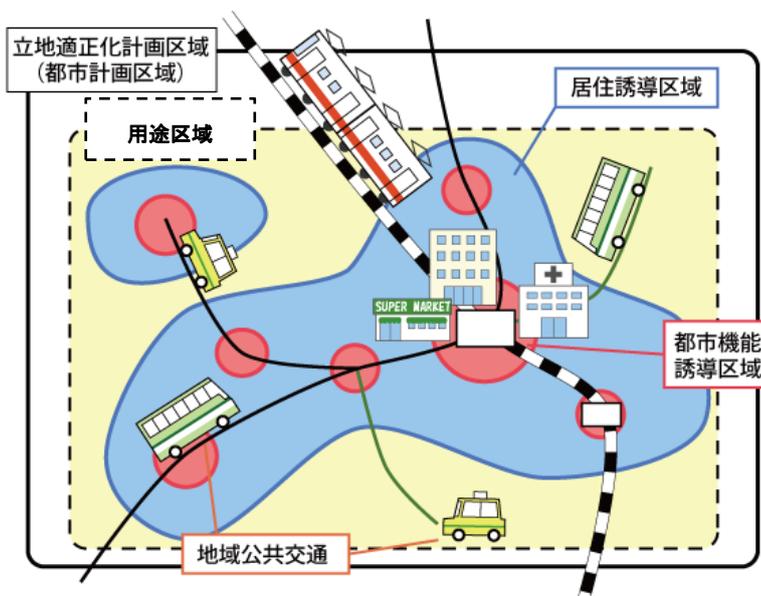
人口密度を高めます(維持します)

人々の住むところを安全で暮らしやすい、生活サービス施設などが利用しやすい場所に集めると、人々が安定して利用してくれるから、これらの施設や公共交通機関も経営を続けることができます。

川南町を住みよいまちにする  
ために「立地適正化計画(いつ  
てき)」をつくります

## 4.川南町が目指すまちづくり

- ・都市機能誘導区域を決めます⇒生活に便利な施設(生活サービス)を集めます
- ・居住誘導区域を決めます⇒安心して便利に暮らせる場所にゆっく集めます



**居住誘導区域**  
人口減少の中でも一定の人口密度を保つことを目指し、居住を誘導する区域

**都市機能誘導区域**  
医療・福祉・商業等サービスの効率的な提供が図られるよう、都市の機能を誘導する区域

**誘導施設**  
都市機能誘導区域ごとに立地を誘導する施設

### ★目指すものは…

- ①コンパクト+ネットワークのまちづくり
- ②歩いて暮らせるまちを目指す
- ③公共交通機関でまちの拠点を結ぶ

### 【注意点】

- ※一極集中型 → 多極ネットワーク型(中心拠点⇄地域拠点をつなぐ)
- ※まちの全ての人口を中心部に集約する → 全くそうではありません
- ※強制的な集約 → 誘導的な集約